

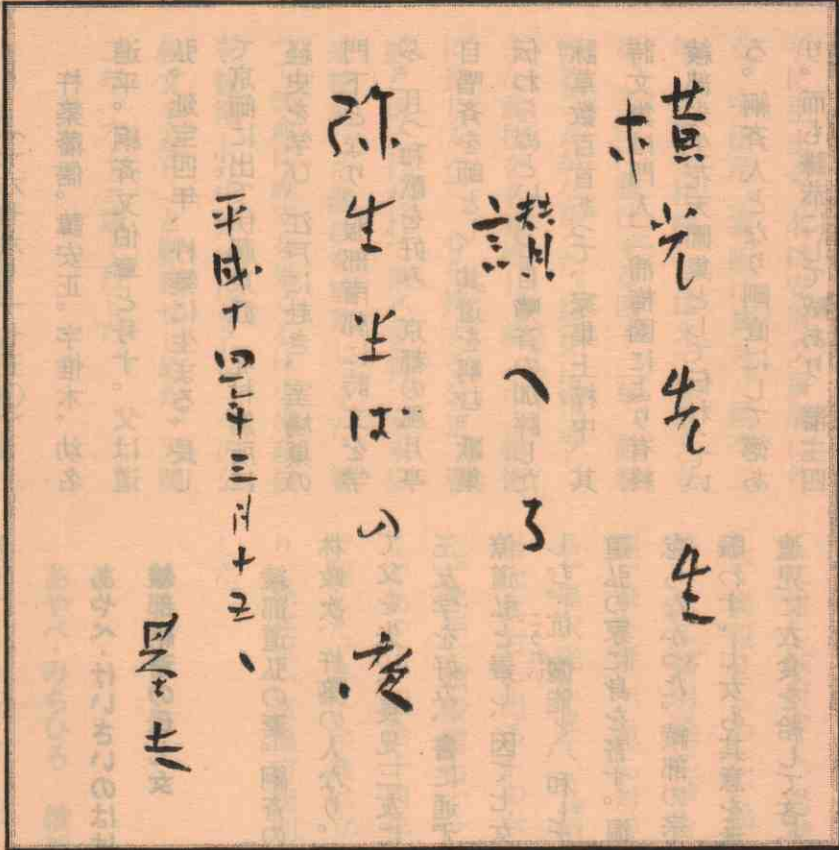
# 宇佐市民図書館 2003.04

# 郷土スペース月報

〒879-0453 大分県宇佐市上田1017-1 TEL.0978-33-4600 FAX.0978-33-4679  
http://www.usa-public-library.jp/

目次
◆ 今月の表紙・清水基吉氏の色紙
◆ 「横光先生と俳句」(講演から) 清水基吉
◆ 龍膽・小野精一編「大分県人名辞典」本文編(11)
◆ 新着郷土資料目録・平成十五(二〇〇三)年【3月】

4 2 1 1



今月の表紙 「横光先生讀へる弥生坐ぼの夜／基吉」。清水基吉氏の色紙。平成十五年(色紙の十四年は誤り)三月十五日開催の「横光利一の世界」で、講演の晩に揮毫。宇佐市民図書館所蔵。清水基吉氏は大正七年生まれ。横光利一に師事し、昭和二十年、「雁立」で芥川賞受賞。俳誌「日矢」主宰。現在、鎌倉文学館長。

## 講演「横光先生と俳句」より

清水基吉

横光先生は作家ですから小説を書いていけばいいわけです。別に十七文字の俳句をひねっている必要はないんです。立派な作家として通って、すでに世の中に出てますからね。

ですから僕は、横光先生が昭和十年頃に十日会という会をつくって若い作家や仲間を集めて俳句をやったということは随分誤解を招くと思いますよ。横光とあろうものがなぜ俳句なんだと……。

しかし、一本の薔薇を描写するのに絵描きが絵で描くように、我々は文章で書くのだと、これはとても難しいことだと僕は横光先生から言われましたね。「一本の薔薇を文章で書いてこらん。薔薇が赤いことはわかっているんだ。薔薇は赤いなんて書いたってつまらない」って。では、何を書けばいいんだと。そうすると、薔薇に対する私、作者が入ってくるわけですね。

つまり横光先生は、散文を書く第一歩として、文章の修練として俳句を選んで、若い者にもやらせたんだと思いますよ。

宇佐細見「横光利一の世界」の講演から抜粋  
平成十五年三月十五日(於・宇佐市民図書館)

# 龍膽・小野精一編 大分県人名辞典 本文編 (11)

遺族から宇佐市に寄託された自筆原稿より、本文を順次紹介しています。  
収録人名一覧は、No.7(2000.10)～No.14(2002.5)に連載しました。

## あやべけ

あやべ・けいさい 綾部綱斎

(一六七六～一七五〇)

杵築藩儒。諱安正。字惟木。幼名進平。綱斎又伯章と号す。父は道弘。延宝四年、杵築に生まる。長じて京師に出て伊藤東涯、北村篤所に經史を学び、江戸に赴き、室鳩巢の門下となり、服部南郭に詩文を学ぶ。且つ和歌を好み、京都の風月亭自唱齋を師とし、其道を窮む。歌集伝わらぬといえど自嘯齋の加評した詠草数百首あつて、家集上梓中、其詩文集は門人三浦梅園により有終綾部先生花天園集として伝わっている。綱斎人となり剛直にして徳あり。而も謙恭にして威あり。藩主四代に仕え、最も知遇を重休候に承く。嘗て関西飢饉に際し、窮民救済策を草して奉つたが、却て有司に容

れられず、譴責をうけて職を辞し、家居し、經義を議訴し、和歌に煩を遣り、自ら楽しむ。寛延三年、七十歳を以て歿す。正覚寺先塋の次に葬る。

あやべ・けいさいのはは・しちじょ  
綾部綱斎の母七女

綾部道弘の妻。綱斎の母。父は小林政次、杵築の人なり。既に竿にして父を失い、長兄三友に養われぬ。

三友学を好み、書に通ず。三友の同僚道弘と善し、因て七女を以て嫁せしむ。伉儷能く、和していた。其母道弘の家に身を寄す。温情甘旨して怠らなかつた。綾部の宗家の窮乏を賑わす。七女も其意を承け、宗家の遺児に衣食を給して吝むなしであつた。道弘歿するや、七女時に四十八歳。少女を伴い伊勢廟に詣でたが、其冬中風に罹り自由を失う。綱斎

膝下に侍し、經史を音読して慰め、又花晨月夕には雅賓を招きて共に請て賦して楽しむ。綱斎外より帰る必ず詩文の有興を問う。七女の興味極めて高雅で、花卉を植え、石を配して自然を友としていた。子女、婢僕に対して頗る寛恕で、孝を賞し、義を奨め、久しく病床にあつて心を乱さなかつた。正徳元年秋、六十歳で歿した。

あやべ・けんたろう 綾部健太郎

高松市、町田半蔵二男。菊池寛と同級。但し中学は久留米明善中学卒業。実は其兄が家を傾けたので叔母のついでに宇佐郡高家膳所栄十氏が引取つて明善校を卒業させたのだ。故に膳所正威博士とは従兄弟の関係である。且膳所氏の世話で杵築の綾部岩太郎氏の養子となり、町田を変えて綾部氏を冒す事となる

(党人郷記)。大正五年、京大政治科卒業、東京電灯に入り、大分県第二区より衆議院議員に推される事四回。有楽商事専務。飯山鉄道、東電。文芸春秋社の重役(大典)。

あやべ・すけゆき 綾部輔之

(一七六〇～一八三四)

杵築藩士。諱佐。字輔之。通称佐太郎。後省吾と改む。兼山と号し、中正先生と諡す。富阪の長男。三浦梅園に学ぶ。天明五年、近侍となり、寛政五年、側太夫となる。享和二年、禄百石加増され、番頭に任ず。剛中公立つや、藩学を起し、之を監していた。文化五年、之を免じ、大夫に列す。文化八年、病を以て辞し、専ら山水を友とし、茶を点じ、詩歌を嗜む。文政二年、中症を發し、歩行困難なるも、読書弄琴を以て余年を樂む。天保五年、七十七歳を以て歿した。

(行水記)

あやべ・ふはん 綾部富阪

(一七二〇～一七八二)

杵築藩士。享保五年、綱斎の長子に生まる。名は安胤又妥胤に作る。字伊承。富阪は其号。延享二年、家督を相続し、仕えて郡宰となる。主侯に歴仕する四十二年、献替懈ることがなかつた。經史に精通し、また武技をも兼修し、就中、槍術に長じていた。心を持つる公正、恩威と俱に行われて衆心を得、安永以来梗塞した藩政を矯革し、また、嘗て侯命に副宰を擧ぐるに小串政俊を抜擢し、中井竹山をして「今の公叔文子なり」と歎称せしめた。天明二年、六十三歳で歿した。

あやべ・ふみあき 綾部文盟

諱久忠。梅処と号す。寛政十年、宇佐郡佐々礼に生まる。幼にして父

あやべ・みちひろ 綾部道弘

(一六三五～一七〇〇)

徳川初期儒者。宇佐兵衛。父道一。字才藏。寛永十二年、国東郡麻田(武蔵村の中)に生まる。儒医を以

て杵築藩に仕え、俸を割いて家兄の病を救い、二孤を養育し、友情を尽くす。郷人其徳望に靡き、其郷の伯夷と称した。其門下生に授くるに四書五經を以てしたが、声伎博局の事は習わせなかつた。其子綱斎が藩侯に仕えて侍講となり、碩学の高かつたのは一に父道弘の恩恵であつた。元禄十三年、六十六歳を以て歿した。(大典)

バックナンバーは  
郷土スペースの(雑誌架)に  
ファイルしています。  
ご希望のかたには、  
カウンター(そうだん)で  
さしあげます。

## 新着郷土資料目録 平成15(2003)年【3月】

書名／人名／出版社／出版年(月)／請求記号／(備考)

野上弥生子賞読書感想文全国コンクール 平成14年度(第15回)

／大分県立図書館／大分県・岩波書店／2003.2/A019オ／(寄贈)

読書感想文・画コンクール入選作品集／日出町立萬里図書館／2003.2/A019ビ／(寄贈)

豊後国荘園公領史料集成 1～8 [4,5,7,8巻は上下・計12分冊]

／渡辺澄夫／別府大学附属図書館／1984-95/A200.87／(購入)

大分の花と紅葉／大分合同新聞文化センター／2003.2/A290オ／(購入)

犬ヶ岳・津民川地域の自然／大分県生活環境部生活環境課／2003.3/A290オ／(寄贈)

散策図鑑べっぴ／おおいたインフォメーションハウス／2003.2/A291.9オ／(購入)

島原藩の歴史 藩制編／入江婿／島原市役所／1972.12/A299.9イ／(購入)

島原藩の歴史 自治制編／入江婿／島原市役所／1972.12/A299.9イ／(購入)

大分学・大分楽／辻野功／明石書店／2003/A302ツ／(購入)

大分大学五十年史／大分大学五十年史編纂委員会／大分大学／2003.1/A377オ／(寄贈)

わたしたちの自然史 第1号－第14号 【合本】

／北九州自然史友の会／北九州市自然史博物館／1979-83/A400キ／(寄贈・合本)

わたしたちの自然史 第15号－第29号 【合本】

／北九州自然史友の会／北九州市自然史博物館／1984-88/A400キ／(寄贈・合本)

わたしたちの自然史 第30号－第46号 【合本】

／北九州自然史友の会／北九州市自然史博物館／1989-93/A400キ／(寄贈・合本)

わたしたちの自然史 第47号－第62号 【合本】

／北九州自然史友の会／北九州市自然史博物館／1994-97/A400キ／(寄贈・合本)

わたしたちの自然史 第63号－第79号 【合本】

／北九州自然史友の会／北九州市自然史博物館／1998-2002/A400キ／(寄贈・合本)

大相撲力士名鑑 平成15年度／相撲編集部／ベースボール・マガジン社／2003/A788ス／(購入)

横光利一研究 創刊号／横光利一文学会／2003.2/A905 Y03／(寄贈)

伊賀百筆 VOL.11／北出楯夫／伊賀百筆編集委員会／2003.3/A905 Y03／(寄贈)

一人二句集 平成14年度／大分県俳句連盟／2003.1/A911.3オ／(寄贈)

おもしろい六つの物語 第六集／藤野新／大分:藤野新／2003.1/A9137／(寄贈)

予科練の群像／大分県雄飛会会員／1995/A916オ／(寄贈・複本)